

オンライン開催

東京労働大学講座 特別講座

フリーランスの労働法政策

今回のコロナ禍の中で、フリーランスとして働く人への保護をどうすべきかという問題が急激に注目を集めました。ただ、この問題は日本国内では雇用類似の働き方ということで、数年前から重要な政策課題として取り上げられ、検討が進められてきたものでもあります。

また、日本のみならず、情報通信技術による第4次産業革命といわれる社会変化の中で、欧米や中国など諸外国においても、プラットフォームワーカー、ギグワーカーなどの言葉で様々な議論が行われ、政策的な対応が進められています。

そこで本講座ではフリーランスの労働法政策について、歴史的な経過を振り返るとともに、日本国内及び諸外国での動向について解説し、この問題の論点や今後の展開の方向性について考えます。

講義後には講師との質疑応答の時間も設けております。

※本講座は、2020年8月に開催した特別講座「新型コロナウイルスと労働政策の未来」で取り上げた4つのトピックのうち、フリーランスに焦点を当て、その後の状況も含めて、掘り下げて論点や今後の展開の方向性について考えるものです。8月の特別講座については、[ブックレット「新型コロナウイルスと労働政策の未来」](#)（定価 1,100 円）もご参照ください。

講師 **濱口 桂一郎** **労働政策研究・研修機構 研究所長**



1983年労働省入省。労政行政、労働基準行政、職業安定行政等に携わる。欧州連合日本政府代表部一等書記官、衆議院次席調査員、東京大学客員教授、政策研究大学院大学教授等を経て、2008年8月労働政策研究・研修機構労使関係・労使コミュニケーション部門統括研究員、2017年4月から現職。主な著書に『新しい労働社会』（岩波新書、2009年）、『日本の雇用と労働法』（日経文庫、2011年）、『若者と労働』（中公新書ラクレ、2013年）、『日本の雇用と中高年』（ちくま新書、2014年）、『日本の労働法政策』（労働政策研究・研修機構、2018年）、『働き方改革の世界史』（ちくま新書）など。

2021年3月3日（水） 15時～17時

受講料 5,000円

お申込み：労働政策研究・研修機構のホームページからお申込みください。

<https://www.jil.go.jp/kouza/tokubetsu/index.html>

